

「キャラクターデザイン」競技 初の日本代表選手2名を決定！

JEED(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構)は、令和9年5月にフィンランドのヘルシンキで開催される第11回国際アビリンピックの「キャラクターデザイン」競技の日本代表選手を決定しました。

本競技は、アニメ、マンガ、ゲームといった日本の強みを最大限に活かせる分野であり、今回が初の日本代表選手の選出となります。全国から89名の応募があり、書類審査(第一次審査)および選考会による技術審査(第二次審査)を行い、2名を日本代表選手として選出しました。

決定した日本代表選手の選考会課題作品



後藤 美タ / 宮城県

所属:就労継続支援 B 型事業所 サブカルビジネスセンター仙台



嶋村 芙美花 / 愛知県

所属:就労継続支援 B 型事業所 DIGITAL ART CENTER 名古屋

日本代表選手選考の概要

第11回国際アビリンピック「キャラクターデザイン」競技の日本代表選手選考には、全国から89名の応募がありました。応募書類および事前課題作品による第一次審査を経て16名を選出し、そのうち14名が第二次審査となる選考会に参加しました。

選考会では、「未来の職業」をテーマにキャラクターを制作し、発想力や想像力、表現力に加え、デジタルツールを活用した制作技能などを総合的に審査しました。

限られた制作時間の中で、応募者たちは独創的なアイデアと高い技術力を発揮。独自の世界観と発想力に基づいたキャラクターデザイン力に加え、構図・色彩・ポーズを効果的に活用して作品の魅力を表現する高い創造力と技術力が評価され日本代表の座を競うハイレベルな選考会となりました。

1. 第一次審査

全国から寄せられた応募書類および事前課題作品を対象に、第一次審査を実施しました。審査テーマである「未来の職業」に対し、自由な発想と豊かな想像力を発揮した多彩な作品が寄せられました。

審査では、発想の独創性やコンセプトの明確さに加え、キャラクターデザインの完成度、色彩やシルエットによる表現力などを総合的に評価しました。その結果、テクノロジーと社会や自然との関わりを創造的に描きながら、応募者ならではの個性やストーリー性を豊かに表現した選手を選出しました。



2. 第二次審査（日本代表選手選考会）

第一次審査を通過した応募者を対象に、実技審査となる選考会を実施しました。全国9都道府県から選出された14名の参加者は、第一次審査で提出したオリジナルキャラクターと関連性の深いキャラクターの制作課題に取り組み、発想力や表現力、デザイン力などを競いました。

- ・ 日 時 令和8年7月18日（土）
- ・ 会 場 学校法人創都学園 東京アニメーションカレッジ専門学校（協賛）
- ・ 審査員 塚本 博義 氏 学校法人創都学園 東京アニメーションカレッジ専門学校講師（ほか多数）
関口 貢 氏 一般社団法人日中動漫遊戯産業連合会 理事長
（元 株式会社サンリオ ライセンス事業部 アートディレクター）
ヨゲンメ 氏 東京工芸大学 芸術学部マンガ学科 助教

